

第28号 訂正・補正を巡る諸問題

[別冊パテント第4号 発行日：平成23年3月14日]

目 次

・新規事項追加禁止の制度趣旨とその判断基準－補正・訂正の要件論－	田村 善之	1
・補正/訂正に関連する特許法改正及び今後の審判と裁判の関係の在り方について	高倉 成男	15
・改善多項制の下における特許請求の範囲の訂正－最高裁平成20年7月10日判決 (民集62巻7号1905頁)を中心に－	三村 量一	25
・試練に立つ除くクレームとする補正の適法性要件	南条 雅裕	36
・米国特許法におけるクレームに対する補正適否の「発明の所有」基準	竹中 俊子	53
・米国における訂正と補正－日米比較と、日本法への示唆－	小林 一任	64
・欧州特許庁(EPO)の予備的請求制度の概要と、わが国の訂正制度との対比	紺野 昭男	78
・ドイツにおける特許の訂正について	・ アインゼル・フェリックス＝ラインハルト	96
・誤記の訂正に関する判例の動向	増井 和夫	110
・訂正・補正と先使用による通常実施権の範囲	美勢 克彦	142
・訂正をめぐる利害関係人との利益調整のあり方－特許法127条は必要か－	飯塚 卓也	159

- ・「実質上特許請求の範囲を拡張し、又は変更するものであってはならない」の意義
……………黒川 恵 178
 - ・補正・訂正制度の趣旨と大合議判決 ………………吉田 広志 195
 - ・「補正・訂正を巡る諸問題」研究部会から「明細書を巡る諸問題」研究部会へ引き継がれる検討事項<私論>—仮想事例の検討を通して—
……………高林 龍 213

研究員（敬称略、役職は報告書作成当時）

会員外研究員

（主任） 高 林 龍（早稲田大学法学部・大学院法務研究科教授）

大 渕 哲 也（東京大学法学部・大学院法学政治学研究科教授）

田 村 善 之（北海道大学大学院法学研究科教授）

竹 中 俊 子（ワシントン大学ロースクール教授・早稲田大学大学院法務研究科教授）

中 山 信 弘（明治大学特任教授・弁護士・東京大学名誉教授）

増 井 和 夫（弁護士）

美 勢 克 彦（弁護士）

飯 塚 卓 也（弁護士）

三 村 量 一（弁護士）

会員内研究員 紺 野 昭 男（弁理士）

杉 村 純 子（弁理士）

黒 川 恵（弁理士）

小 林 一 任（弁理士）

南 条 雅 裕 (弁理士)

アインゼル・フェリックス＝ラインハルト (弁理士)

田 中 昌 利 (弁護士・弁理士)

大 野 聖 二 (弁護士・弁理士)

高 倉 成 男 (弁理士)

オブザーバー 吉 田 広 志 (北海道大学大学院法学研究科准教授)